

第2学年2組 音楽科学習指導案

第2校時 場所 2年2組教室 授業者 上原正士

1 単元名 和音も付けて表現しよう！和音読絵本

和音の響きの学習は、高学年で取り扱われることが多く、低学年の子どもたちが和音の響きを学習内容として学ぶ機会は少ない。和音の響きは、音を重ねることによって感じられる響きのことであり、長調や短調など調性のある音楽において曲の明るさや雰囲気や決定付ける重要な音楽の要素である。この和音の響きが生み出すよさや面白さ、美しさにふんだんに関わる機会を低学年の時期に設定することは、音楽を表現・鑑賞する際に豊かに思いや意図をもって取り組む子どもの姿を生み出すことにつながっていくだろう。

そこで、絵本『だるまさんと』の場面に合う和音を考え、和音と音読で表現する和音読絵本をつくる活動に取り組む。この本は、「だ・る・ま・さ・ん・と」の次のページに、だるまの感情や様子の変化が現れるつくりになっている。今回の音楽づくりは、この対になっている2つのページに、それぞれの場面に合う和音を1つずつ選び、読み手がより一層お話をたのしく視聴できる作品を目指すものである。この活動を通して、子どもたち一人一人がお互いの感じ方に共感したり違いに気付いたり、和音の響きを感情や様子や物事に例えたりする表し方を理解したりすることができることを目指す。そして、様々な和音の響きがつよさや面白さ、美しさに着目しながら、粘り強く表現を追求する力を身に付けることができると考える。

2 題材について

- (1) 本題材では、和音の響きの違いに着目して、絵本の場面に合った和音を選ぶ活動を通して、同じ和音の響きから自分と友達の感じ方の違いに気づいたり、共感したりしながら、和音の響きやそのつなげ方によって生み出されるよさや面白さ、美しさを味わうことをねらいにしている。また、様々な和音の響きがつよさや面白さ、美しさに気付きながら自分たちが表現したいことに合う和音はどれなのか、粘り強く表現を追求していく態度を育成することがねらいである。
- (2) 子どもたちは第1学年「ほしのおんがくをつくろう」で、星の様子に合わせてドミソの3音を用いた旋律をつくる学習をしている。本題材は和音の響きについての多様な感じ方に共感したり自分の感じ方に気づいたりしながら音楽づくりに向かうようにする。和音の響きを扱う本題材での学習は、音楽づくりの分野においては、第3学年「伴奏に合わせた旋律づくり」や第5学年「和音に合わせて旋律をつくろう」の学習につながっていく。また、和音は曲想を決定付ける重要な要素であり、様々な曲の鑑賞に関わりっていく。
- (3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数：36人)
 - ① ドの和音からオクターブ上のドの和音までの8つの和音について、それぞれから感じることを全て書けた子どもは31人であった。その記述した文章中に、和音の響きから明るさを感じ取った子どもは4人、感情を感じ取った子どもは7人、物事に例える子どもは14人であった。
 - ② 音楽をつくるのが得意だと感じている子どもは18人で、苦手意識を持っている子どもが11人で、わからないという子どもが7人いる。
 - ③ 全員が音名を読んで鍵盤ハーモニカを演奏できるが、重音を鳴らす演奏については難しいと感じる子どもが8人いる。

3 題材の目標

- (1) 和音の響きの特徴について、それらが生み出すよさや面白さ、美しさに関わらせて気づくとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) 和音の響きを感じ取り、その働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 和音の響きを生かして音楽をつくることに興味・関心をもち、主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組み、鍵盤ハーモニカを用いた和音の演奏に親しむ。

4 指導計画（5時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 ・ 2	1 和音読絵本に出合い、ペアで音楽づくりをして発想を広げる。	○ 教師が提示した作品例をつくりかえる活動を行うことで、思いや意図のもとに友達と意見交換しながら和音を選ぶ活動の見通しをもてるようにする。	【知】 場面に合った響きをもつ和音を探することができる。 (観察、振り返り)
3	2 和音読絵本を聴き合う。	○ 作品を聴き合うまでに、表現したいこととそのための工夫をワークシートに書き込んでおくことで、思いや意図に焦点を当てて相互鑑賞して意見を交流することができるようにする。 ○ 和音のつなげ方の工夫をしているペアの作品の鑑賞を通して、和音の連結が生み出すよさや面白さ、美しさと表現したいこととの関わりについて考え、作品のよさを自覚したり思いや意図を新たに持って作品を更新したりできるようにする。(本時3/5)	【思】 和音の連結が生み出すよさや面白さ、美しさと表現したいこととの関わりについて考え、どのような音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 (観察、振り返り)
4 ・ 5	3 演奏を楽しみ、収録した作品を視聴して題材全体の学習を振り返る。	○ 絵本の音読と和音の演奏をタブレット端末で収録し視聴することで、確かめながら表現したいことを実現できたか試行錯誤を繰り返すことができるようにする。 ○ 読み手にどんな思いになってほしいか、そのために工夫した音楽表現の具体、作品完成に至るまでのエピソードを書かせることで、作品に込めた思いや意図と音楽表現とのつながり、自己の学び方を自覚できるようにする。	【主】 和音の響きを生かして音楽をつくることに興味をもっている。 (観察、振り返り) 【知】 和音の響きの特徴について、それが生み出すよさや面白さ、美しさに気付いて、思いや意図に合った表現に合うものを選ぶことができる。 (観察、振り返り)

5 本時の学習

(1) 目標

和音のつなげ方の工夫をしているペアの作品の鑑賞を通して、和音の連結が生み出すよさや面白さ、美しさと表現したいこととの関わりについて考え、思いや意図をもつことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
8	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前の時間につくった和音読絵本は、なかなかよくできたな。ページごとにどんなことを表したいか書くことができたし、みんなで聴き合うのが楽しみ。 ○ 私とみんなの楽譜に似ているところがあるのか。 ○ 場面と和音の関係は考えていたけれど、和音と和音のつなげ方はあまり考えていなかったな。 ○ ゆうかさんが選んだ最後の2つは、お辞儀するときの音っぽくて、終わりますって感じがする。
15	2 最後の2つの和音のつなげ方を考え、よさについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最後の音はオクターブ上のドの和音ってことは決めていいと思うんだよね。その前に何の音をつなげるといいか試してみよう。 ○ 演奏が難しいな。先生に演奏してもらったら、自分たちの音楽がけっこういい感じがするってわかった。次は、1つずつ分担して演奏してみようよ。できた！ ○ オクターブ上のドの和音からドの和音につなげると、落ち着く感じがして終わる感じがするよ。 ○ ソの和音からドの和音につなげると、お辞儀するときの音みたいに聴こえて、終わりって感じがします。それから、落ち着いた感じもしていいと思います。 ○ いろいろなつなげ方があるな。私は、ソの和音からオクターブ上のドの和音につなげるのが、この絵本にぴったりだと思うようになったよ。あなたはどうか？
20	3 自分たちの音楽をつくり直す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ぼくたち、どう変えていいかわからないな。とりあえず最後の4ページのところを演奏してみようか。 ○ 一度演奏してみると、どんな感じがするかイメージが湧いてきた。できたと思ったけれど作り直そう。 ○ ソの和音からドの和音につなげるか、それともオクターブ上のドにつなげるか迷うな。みんなにっこりしていて、落ち着いていると思うから低いドにしよう。 ○ 今日和音を付け直してみました。ぼくたちの作品は、前と比べて少し静かな感じに変わりました。それは最後の音を低いドの和音に変えたからです。
2	4 本時を振り返って次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでは、1ページにどんな和音を付けるかということだけ考えていたけれど、次の和音とのつながりを考えるともっとよくなりました。



自分たちの和音読絵本をつくる中で、和音のつなげ方の工夫に言及する子どもたちが現れました。最後の場面の和音のつなげ方を考えることを通して、和音の変化が生み出すよさや面白さ、美しさを生かしてつくり直す子どもたちの姿を目指します。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 前時までに、表現したいことと選んだ和音をワークシートに書き込んでおくことで、思いや意図に焦点を当てて相互鑑賞して意見を交流することができるようにする。
- すべてのペアの最後の和音の一覧を大型テレビで提示することで、オクターブ上のドの和音で終わっている班が多いことに気づくことができるようにする。
- 前時に、最後とその前の和音のつながりのよさを考えて和音を選んでいた子どもの振り返りを取り上げた後、その部分の演奏を聴かせることで、和音のつながりが生み出すよさに気付かせ、以下の課題を設定する。

【教材・教具】

- ワークシート
- 大型テレビ
- 鍵盤ハーモニカ

最後の2つにぴったりの和音のつなげ方を見つけよう。

- 演奏に時間を要して和音のつながりのよさを感じ取りにくそうにしているペアには、和音を1つずつ分担して演奏するよう促したり、教師の演奏を聴かせたりすることで、和音のつながりのよさに着目できるようにする。
- 「いいつなげ方を見つけた」と言うペアに演奏を促して、そのペアが感じ取ったよさに共感するとともに、用いた和音を確かめることで、和音のつなげ方とそのよさの関わりに着目できるようにする。
- ソの和音からドの和音につなげるつなげ方が出された場合には、感想を取り上げたり演奏を繰り返したりして音楽が終わる感じがすることに気付けるようにする。
- 発表された様々な和音のつなげ方は、そのよさと関連させて板書することで、これまでの作品とは異なる和音のつなげ方のよさに着目させ、以下の第2の課題を設定する。

和音のつながりに注目して作品を見直そう。

- どのページの和音を考えるか迷ったり、変えなくてよいと考えたりしているペアがあれば、最後の4ページの演奏を促し、その演奏から感じ取ったことを伝えることで、自分たちの表したいことは何か明らかにさせたり、表したいことに合う和音を選んでいるか立ち止まって考えられるようにしたりする。
- 振り返りの視点として、前時までに作った作品と比べて、満足していることや新たに生まれた困り事を書くことを示しておくことで、必要に応じて、音楽表現と表現したいこととのつながりを捉えることができるようにする。
- 表現したいことに合うように和音のつなげ方に着目して作品をつくり変えた子どもに発言を促して、本時の学びを自覚できるようにする。

【評価】

和音のつなげ方に着目して、自分たちの作品のよさに気付いたり、よりよいものに更新しようとしていたりしている。（発言・振り返り）

